

CSR通信

平成19年1月17日

高田頭取が財界誌・「経営者賞」を受賞 ～「CSRのしがぎん」に高い評価～

当行 高田頭取が、総合ビジネス誌「財界」が選ぶ、平成18年度「経営者賞」受賞の栄に浴され、1月12日(金)、贈呈式が東京會館で執り行われました。

「財界」(発行元・財界研究所)は、1953年に故・三鬼陽之助氏が創刊した、伝統と格式ある総合ビジネス誌で、第51回目(経営者賞は49回目)となる今回は、「財界賞」に北城 恪太郎氏(経済同友会代表幹事・日本アイ・ピー・エム会長)、「財界賞・特別賞」に生田 正治氏(日本郵政公社総裁)、そして、「経営者賞」に当行 高田 紘一頭取の他、5名が選ばれました。

受賞理由として、『日本の金融界が不良債権処理で苦しむ中で、まだ大手銀行でも手掛けていなかった環境対策融資「エコ・クリーン資金」を打ち出した。そうした環境重視の経営は、金融界のみならず、全産業界の見本となるものであり、その意義は大きい。』との高い評価を受けました。

受賞スピーチの中で高田頭取は、冒頭で「21世紀は『平和』と『環境』の世紀にしなければならない」と述べられた上で、環境ビジネスに目を向け、すばらしいビジネスモデルを確立しておられる中小企業の皆さまを賞賛。「地方銀行として、こうした地元企業の皆さまの支援に、より一層取り組んでいきたい」と述べられました。



堺屋太一氏からレリーフを受け取る高田頭取



花束のプレゼンターは福原愛さん